

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ
牧師 黒田 禎一郎

2017年4月30日（日）

主 題：「神のみこころの教えを学ぶために」

—前進がなければ後退—

テキスト：ヘブル人への手紙6章1～8節

はじめに

- ・ 前回は確か3月に、私たちはヘブル人への手紙を学びました。それから時間が経過しましたから、少し復習をしてみたいと思います。
- ・ ヘブル人への手紙の著者は、この書簡をユダヤ人クリスチャンへ書き送りました。つまりユダヤ教徒であった人たちが、イエス・キリストを救い主として信じ受け入れたのでした。彼らをユダヤ人クリスチャン（Messianic Jew:メシアニック・ジュー）と呼びます。
- ・ そして彼らに御子イエス・キリストは、天使や父祖アブラハム、大祭司アロンより、はるかに優る大祭司であることを説いてきました。
- ・ **1:4 御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使よりもまさるものとなりました。**
- ・ そして最も偉大なメルキゼデク、その位に等しいお方であると、説いてきました。
- ・ **5:6 「あなたは（イエス）、とこしえに、メルキゼデクの位に等しい祭司である。」**
- ・ 著者がそのように説いた目的は、イエス・キリストを信じ受け入れたユダヤ人クリスチャンが、神の祝福の内に歩むことを願い、大きく励ますところがありました。時には、著者はやや厳しい口調で「勧めの言葉」や、「警告の言葉」を送りました。それらの「勧めの言葉」や「警告の言葉」こそ（どうぞ誤解されませんように）、それは私に向かって語られた言葉でした。自分自身の霊的成長を考えると、主の前にまったく恥ずかしい者であるからです。愛の言葉は、時に厳しさがあります。
- ・ しかし先人のクリスチャンたちは、私が霊的に成長するため、信仰生活で大切な5条件を教えてくれたことも学びました。
 - ① 日々、聖書を読むこと（励まし、勇気、力、癒しを得る）
 - ② いつも祈ること（主を経験する）
 - ③ 証しすること（主から教えられたことを分かち合う）
 - ④ 主に従順であること（主の教えに従う）
 - ⑤ 教会生活に励むこと（忠実にお仕えする）
- ・ そして、信仰生活の霊的成長の近道はないことも教えられました。コツコツと毎日やっていたら、必ず成長します。そして成長するキリスト者となるのです。それは生まれた赤ちゃんが、順調にいけば成長するようなものです。
- ・ 聖書のみことばは、神のことばです。みことばは日々の糧でもあります。人は日々の糧を食して、内なる人は成長するものです。

- ・そして今日のテキスト第6章に入ります。当時のユダヤ人クリスチャンたちは、信仰生活の苦難の中で、容易にユダヤ教へ回帰していく人たちが現れてきました。この手紙は、ここまでの学びでお分かりのように、ユダヤ教より御子イエス・キリストの方がはるかに優れていることを証明することで、彼らを励まそうとしています。決して彼らを苦しめるためではありません。
 - ・ここで大切なことは、著者はユダヤ教を決して悪いものと見てはいませんでした。(どうぞ誤解しないでください！ 著者自身もユダヤ人であったでしょう)
- 著者が用いている方法は、「良いもの」(ユダヤ教)と、「より良いもの」(御子イエス)との比較です。そこで今日、私たちは次の2点を学びたく願います。

大切なポイント

1. 良いものと、より良いもの

1) 初歩の教えをあとにして

6:1 ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目指して進もうではありませんか。

- ・著者は「初歩の教えをあとにして」と言いました。

では、初歩の教えとはなんでしょうか。それは次の聖句です。

6:1 死んだ行ないからの回心、神に対する信仰、

6:2 きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。

- ・「死んだ行ない」とは、イエス・キリストを信じなかった時の日々の歩みのことです。
- ・「手を置く儀式」とは、犠牲の動物の上に手をおいて、罪をその動物に背負わせる儀式のことです。著者はこれらを信仰の初歩と言いました。さらに「死者の復活」、「とこしえのさばき」などでさえ、信仰の初歩であると言うのです。
- ・皆さん。ユダヤ人信者にとって、これらは決して軽いものではなく、先祖から教えられてきた尊い教えでした。しかし著者は、それらは初歩の教えと言いました。それは「良いもの」でした。しかし「より良いもの」が現れたからでした。それがイエス・キリストによるものであることを、著者は言いたかったのです。

2) 成長のステップ

- ・初歩というステップを踏むならば、その次のステップがあります。それが成長へつながります。成長のために大切なことは、大祭司となられたキリストが、私たちを罪から贖ってくださった事実です。この一事を自分のものとするならば、決して成長にしない、生ぬるい信仰のままにすることはありえないと言います。
- ・イエスを信じた者が霊的に成長することは、自然なことで、神のみこころにかなうことです。神は成長を願う者には、願ったことを実現させてくださるお方です。
- ・「良いもの」と、「より良いもの」とを見分けることができる人は霊的子どもではありません。それは成長している人でしょう。

- いかがでしょうか。私たちの人生においても、「良いもの」が多々あります。しかし「より良いもの」が現れたら、前者の価値は小さくなるものです。この書簡は、あなたがたユダヤ人クリスチャンに「より良いもの」が現れたのですから、もう古いものに留まる必要はないと教えています。

2. 神の祝福を受けるものとなる

1) 聖徒の靈的成長

- 著者はここで「5つの祝福」を述べました。

「より良いもの」を知っている人は、成長する人です。

6:4 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、

6:5 神のすばらしいみことばと、後にやがて来る世の力とを味わった

- ① 光を受けて
- ② 天からの賜物の味を知り（マナ）
- ③ 聖霊にあずかる者となった
- ④ 神のすばらしいみことば
- ⑤ 後にやがて来る世の力を味わった

- 神が計画する靈的成長ノートがあります。

{例 話} 神が計画する靈的成長

- 米国であったエピソードです。ある少年が小学校に通っていたころから、陸上競技を始めました。ある日の夕方、コーチは少年を夕飯に招きました。食事のあとに、コーチは少年について書かれた1冊の「コーチ・ノート」を取り出しました。
- コーチは最後のページを開いて少年に見せました。なんと3年半も先のことが書かれていました。コーチは少年にこう言いました。
「ここには、3年半後の記録が書かれている。この記録を達成するために、私が君を訓練するから」
- 少年はその記録を見て驚きました。当時の少年の記録から考えると、それは到底不可能な数字でした。しかしコーチは少年の能力を知っていました。コーチは、そのノートを最初から1ページずつ開き、時間とともに記録がどのように伸びるかを示しました。
- コーチはどのように訓練すればよいかを、熟知していたのです。どのような分野でも、コーチやリーダーは長期的計画を持っています。つまり視点はゴールに置かれているのです。
- 私たちの靈的成長においても、同じことが言えます。神は私たしの人生のコーチです。知恵と知識に富んだ神は、私たちの人生について完璧な計画ノートをお持ちです。時の経過とともに、私たちがキリストの似姿に造り変えられていくことを、ご存じです。
- 私たちは成長して主の弟子になろうとすると、つい意識して身構えてしまいます。良いクリスチャンなろう、立派なクリスチャンになろうと、力むこ

とがあります。いわゆる肉の頑張りです。しかしそれは思い違いです。主が弟子を訓練なさるは、主の愛に包まれながら訓練されるのです。主はその人その人に応じて、違った訓練をされます。ですから、ついて行くことで十分です。ついて行くかどうかは鍵です。

{例 話}

- ・料理にたとえてみましょう。日本料理の専門家は素材から自分で選びます。見かけでなく真に良いものを選びます。それぞれの素材を生かし、最も美味しい味を引き出し全体を構成します。そのために切ったり、こねたり、砂糖だけでなく塩やこしょうも使います。
- ・主にはご計画があります。私たちは主に従順について行き、主とともに過ごすならば、訓練されている意識なしに訓練を受けているのです。それは個性を生かされ、すばらしい主の弟子となる道です。私たちをお救いください、選んでくださったのは主です。私たちは主から特別に選ばれた者です。成長し成熟する鍵は、主に従順であることです。

2) 著者の意図

- 6:6 しかも墮落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。
- 6:7 土地は、その上にしばしば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じるなら、神の祝福にあずかります。
- 6:8 しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。
- ・著者は、「5つの祝福」にあずかった者が、その教えに背を向けて歩むことに対する厳しい警告も出しています。この箇所は神学的に、昔からさまざまな議論があるところです。そこで大事なことは、文脈(前後の関係)の中で著者の意図を正しく理解することです。
 - ・ある方はこの箇所を読んで、悔い改めが不可能な罪があるかのように考え、苦しむことがあります。神を知っている者が墮落するならば、もう再び立ち返ることはできない、と考えます。
 - ・しかし私は、この厳しい論調は著者の意図ではないと思います。なぜなら聖書全体の大きな視点から見れば、神は人類を滅ぼすためでなく、愛の神であるからです。イエスは次のように言われました。
- 18:21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」
- 18:22 イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。
- イエスは無限大の赦しを、ペテロに説きました。神は真に悔い改めるならば、無限大

の赦しを与えてくださいます。

- ・皆さん。イスラエルの民をご覧ください。彼らこそ神に愛された民です。しかし彼らは何度も何度も神に背き、偶像を作り、神の前に大きな罪を犯しました。しかし神は、イスラエルの民を愛し、救いの計画（赦しの計画）をお持ちです。それは神がアブラハムと契約（片務契約）を結ばれたからでした。彼らは愛された民です。同じように、異邦人であっても、アブラハムの子となった者は、愛された子です。
- ・このように著者の意図は、ユダヤ人信者にキリストの贖罪についての的確な認識を促すことにありました。結果として彼らに強い信仰を持たせることにありました。その前提に立って、著者はきびしい警告を発していると思います。ここは重要な点です。
- ・このように父なる神の愛、イエス・キリストのとりなし、聖霊のみ守りを考えるならば、本当に救いを体験した人が、滅びに陥っていくことなどはあり得ないことです。もし仮に、「5つの祝福」の教えに背を向ける人がいるとするならば、そういう人は最初から真の救いを体験してはいなかったのではないのでしょうか。偽信者です。
- ・いかがでしょうか？自分は取り返しのつかない罪を犯してしまい、もう駄目であると思っている方はいませんか。その罪のために苦しんでいませんか。しかし大丈夫です。聖書は次のように述べています。

**聖書：もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちがきよめてくださいます。 I
ヨハネ1：9**

- ・私たちは今、恵みの神の前に罪を告白するならば、御子イエスの御血による清めを受けることができます。私たちが真に罪を告白するならば、神は無量大の愛で、その罪を赦してくださいます。それがこの聖句です。

ま と め

主 題：「神のみこころの教えを学ぶために」

—前進がなければ後退—

- ・私たちは今日も、大切なことを学びました。神に愛され、神によって成長する人となるため、神はご計画を持っておられることを学びました。大切なことは何でしょうか。

1. 神の意図は懲らしめではなく、成長させることにある

神はイエス・キリストを通し、まったく赦しを与える愛なるお方です。

7度の赦しではなく、70倍です。⇒無量大の赦し

2. 私たちに求められることは、主の訓練に従順であること

私たちは日々の生活の中で、主に訓練されているのです。神は「コーチ・ノート」を持ち、私たちを生かし、成長させるために訓練してくださいます。主の教えについて行く（従順）ことが、私たちに求められていることです。

* God bless you !